



## 学内探訪 図書館

### ★「カルヴァン全集」

2001年5月に『宗教改革者全集

- カルヴァン著作集』全59巻20冊を収藏した。この著作集は、め

ったに出版されることはなく、古本でしか手に入らない。本著作集は、1863年Baum - Cunitz - Reuss Brunswickの編集によってオランダで出版され、名だたる研究者の手を経て、本学図書館に搬入された。内容は、キリスト教綱要、聖書注解、書簡、論争文、諸規程集など。



### ★「石田謙一・鉄道コレクション」

本学元保育科教授・石田謙一先生よりご寄贈いただいた鉄道関係図書、Video、MD、写真集など1,000点余りを、2002年11月に『石田謙一・鉄道コレクション』新コーナーとして設置。

## 人 事

●2002年4月1日～2003年3月31日

### 昇格<2002年4月1日付け>

宮国 薫子 英語科助教授

### 異動<2002年4月1日付け>

城間 勉 (総務企画課書記) → 図書課書記

### 異動<2002年9月1日付け>

仲宗根 末美 (教務課書記) → 教務課主任(昇格)  
友利道明 (情報センター課書記) → 財務課書記

### 異動<2002年12月1日付け>

与儀 勝彦 (就職課長) → 就職課長兼  
学生課長

### 採用<2002年9月1日付け>

渡真利 源吉 保育科特任教授 (2003年3月31日退職)

### 採用<2002年10月1日付け>

ランドルフ・スラッシャー 英語科教授  
野崎 茂 英語科教授  
石川 清治 保育科特任教授 (2003年3月31日退職)

### 退職<2002年8月31日付け>

ライル・アリソン 英語科教授 (契約終了)

### 退職<2003年3月31日付け>

新川 武雄 事務局長



最近の世の中はイラク戦争や北朝鮮のテボトン配備が毎日、話題にのぼる不穏な情勢である。沖縄キリスト教短期大学で学び、働いた者たちは誰しも、第二次世界大戦後に戦争の悲惨さを体験された本学創設者、仲里朝章先生の願いを胸に、平和を守る精神と言葉を広めて行かなければならぬと思う今日このごろである。

(K.M.)



沖縄県西原町字翁長777

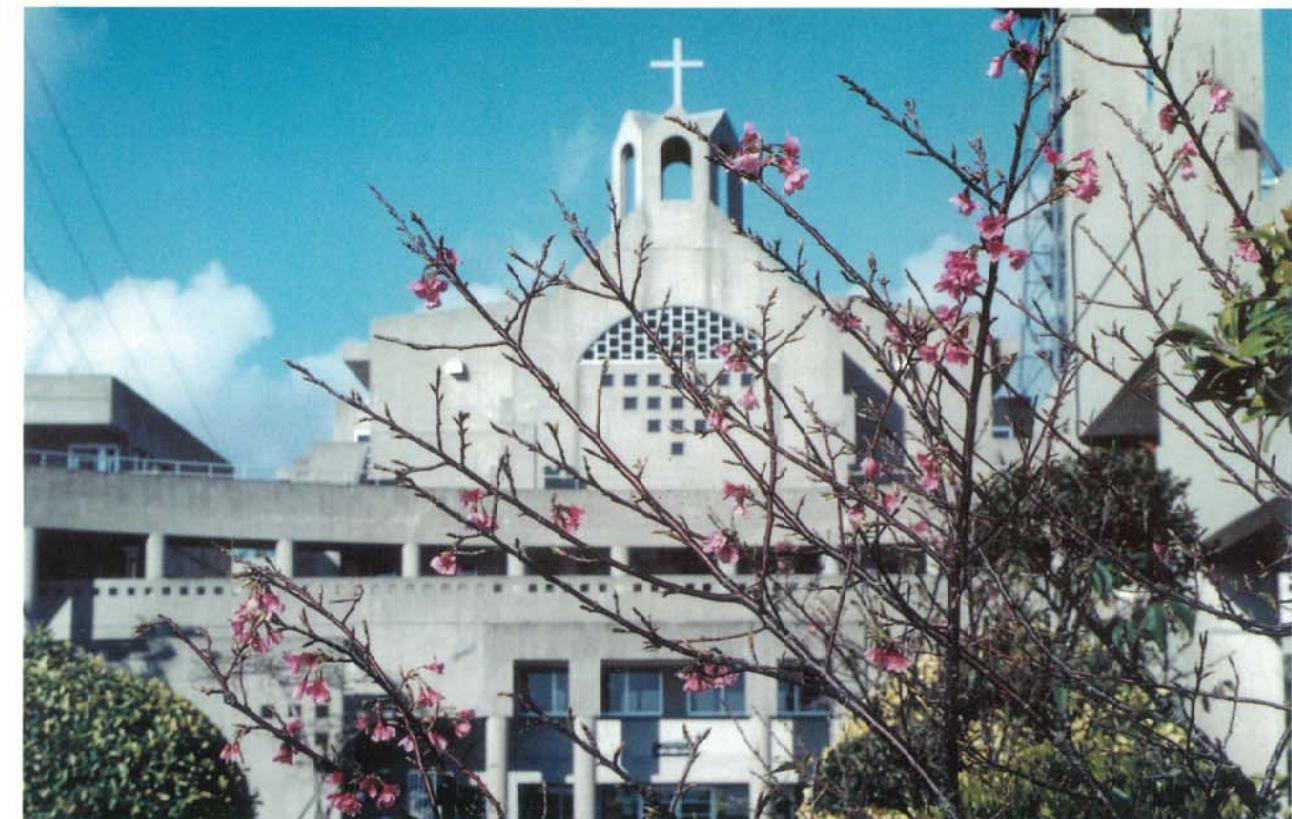
☎(098)946-1240 Fax(098)946-1241

編集・発行

沖縄キリスト教短期大学学報委員会

URL http://www.ocjc.ac.jp/

# 学報 第49号



表紙写真：キャンパスの春

## 記事内容

★これからの大学運営を探る	理事長 大城 進一	2	★地域・交流 (チャレンジウィーク)	11
★沖縄キリスト教学院の新たな歩み	学長 神山 繁實	2	★同窓会便り	
★沖縄キリスト教学院大学構想 (日本ドリコム記事)	3	(四年制大学設置事業に2,000万円寄附／キリ短を支える祈り会 ／児童文化研究サークル“同窓会”／専用パソコン購入)	12	
★キャンパスニュース				
国連大学グローバルセミナー	4	★教員の研究・教育活動		
高大連携事業開始	4	(研究発表…山里 恵子／沖縄キリスト教短期大学)		
自己点検評価	4	紀要31号 目次／2003年度前期公開講座	13	
新任教師紹介	5	★寄付感謝報告	14・15	
学び続ける心を	5	★2001年度決算報告	15	
本学訪問者	6	★学内探訪「図書館」	16	
インターナショナル・シアターカンパニーロンドン公演	6	★人事	16	



## これからの大学運営を探る

理事長 大城 進一

1998年10月末、大学審議会は文部科学省の諮問に、「二十一世紀の大学像と今後の改革方策について」～競争的環境の中で個性が輝く大学～を答申した。この答申の目的は、「二十一世紀の大学がどうあるべきか」を明確にする意図をもってなされたもので、大きく四つの分野に分けられる。

(1) 課題探求能力の育成 (2) 教育研究システムの柔構造化 (3) 責任ある意思決定と実行 (4) 多元的評価システムの確立である。この課題の趣旨は大学改革による教育の質の向上を図り、平和で豊かな社会を建設することにある。

ここで本学院の理事会の方向について述べてみたい。21世紀を迎える大学運営については、新たな転換期にさしかかった。現在、大学の運営に問われていることは、組織運営の責任体制である。1960年、70年代の大学紛争によって、大学は内側から荒廃した。大学の質の低下の原因は、種々あろうが、経営側の責任体制が不明確で、大学が社会の変化に適切に対応できる態勢を敷いていかなかつたと言われている。

この答申は、21世紀を迎えた日本の大学が、世界の大学に劣らない教育の質を確保する方策を謳っている。学内では、学長を中心とした運営態勢を組み、国公立大学は評議会と教授会で責任を分担し、私立大学は理事会と教学組織の間の役割を明確化することが求められている。このスタイルは、長年日本の大学が採ってきたものとは違い、運営の責任体制を明確にすることを求めている。理事は常勤、非常勤を問わず、結果において責任が問われ、教授会は教育・研究・社会貢献に責任を負うのである。理事会と教授会とは、対立関係にあるのではなく補完関係にある。双方協力して新しい時代に対応して、時代の要請に応えていくことを念願している。



## 沖縄キリスト教学院の新たな歩み

学長 神山 繁實

2002年度の終わりを迎え、今年で1万人余の卒業生を世に送り出すことになる。本学は、戦後半世紀にわたって、幅広い人材を世に送り出し、卒業生は教育・福祉、政治・経済、ジャーナリズム、航空会社、金融界等、様々な分野にわたり、県内・県外・国外で活躍している。卒業生は「学院卒」あるいは「キリ短卒」として大きな誇りをもって社会貢献に努めている。自分の学校に誇りを持ることは幸いである。

2003年4月には、長年の懸案であった四年制大学設置申請を行う予定で準備を進めている。県内の6大学、2短期大学の存在はいずれもユニークであるが、本短期大学が聖書の教えに基づく平和主義、地域貢献、国際貢献を担う人材育成は、建学の精神のユニークさと共に時間と空間を越えて普遍性を有する。この意味から、本学院の四年制大学設置は、建学の精神の更なる前進である。

年々、短期大学を廃止して四年制大学への改組転換が盛んに行われているが、短期大学は、その使命と存在意義とが薄れたわけではない。四年制大学の設置によって、生涯学習を担う短期大学の使命は、コミュニティ・カレッジとしての重さを増し加え、地域における存在意義は増大している。この意味で四大設置によって、短大の教育の質が一層充実していくのは当然である。北米や韓国などでは、コミュニティ・カレッジが地域で果たす役割は大きい。生涯学習時代を迎えて、何時、何処でも、必要な人は自分の人生を豊かにする場所が確保できる仕組みを大学が提供していく責任があるのでなかろうか。日本においても短大、四大の区別なく、各自の必要に応じて学習できる社会をめざし、QOL(生活の質)を高める環境を整備する大学を形成していきたいものである。

## 最前線 Report

◎2004年4月新設予定(構想中)

### 大学新設

**国際交流の拠点—沖縄で異文化理解を深め、実践的英語力を養いコミュニケーションを通して世界に貢献できる人材を育成します**

### 人文学部／英語コミュニケーション学科(仮称)

#### debut! 新登場

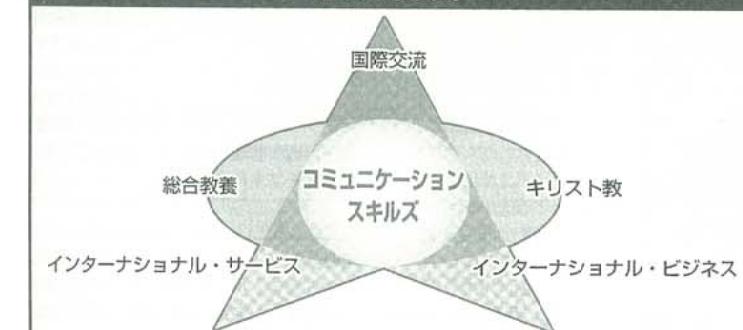
##### ①平和で豊かな地球社会の創造に貢献

キリスト教の教えを基にした高い倫理性と、国際共通語となった英語の実践的運用能力を兼ね備えた、グローバル化時代の異文化コミュニケーションを育成します。国際交流の拠点—沖縄で、世界平和に貢献する人材を育てます。

##### ②高度情報化・多様化する社会を生き抜く知性と行動力

急速に変化し複雑化する社会環境に対応して、より高度の知識と技能、幅広い視野と確かな判断力を養います。自ら問題を発見し、それを主体的に解決する態度と能力を培います。情報処理能力・自己表現能力・基本的実務能力など、“知識社会”に必須の技能も身につけます。

#### 学部概念図



#### 新設の背景

沖縄キリスト教短期大学・英語科は、“英語のキリ短”として、その実践的英語運用能力育成で、高い評価を受けてきました。しかし、グローバル化・高度情報化が急速に進展する中で、より高度の専門的知識や技能が必要とされるようになり、“キリ短”を四年制大学に、という声が年々高まっています。

そこで、短期大学の定員の一部を四年制大学に振り替え、「人文学部・英語コミュニケーション学科」として新たなスタートを切ることになりました。

高い語学力と豊かな国際感覚。建学の精神に基づき、国際交流の拠点—沖縄から、“平和を創りだす者”を世に送り出します。

#### 学ぶ内容

国際化・グローバル化の中で、異文化コミュニケーションの果たす役割はますます大きくなりました。優れたコミュニケーションには、英語力に加え、幅広い教養・健全な判断力が要求されます。

コミュニケーション・スキル科目群で英語・日本語の運用能力を高めると共に、情報処理技術も身につけます。総合教養・キリスト教科目群では、幅広い教養や倫理性豊かな判断力を養います。

コミュニケーション能力に更にみがきをかけ、国際交流・国際経済・国際関係の分野での活躍を可能にする3つのコースを設けました。

#### 期待される分野

国際交流コースでは、同時通訳・翻訳技などの科目も設置され、翻訳家・同時通訳者・会議通訳者等の、異文化交流を促進する人材を育成します。

インターナショナル・サービスコースは、国連・大使館・NPOなどの国際的な非営利機関・団体への進出を希望する学生のためのコースです。「国際ボランティア実務士」称号の取得も可能です。

インターナショナル・ビジネスコースは、国際的業務を行っている企業への就職をめざす学生のためのコースです。「上級ビジネス実務士」称号が取得できるよう配慮しています。

いずれのコースを履修しても、「プレゼンテーション実務士」・「上級情報処理士」称号の取得が可能です。

教職課程があり、中学校・高等学校一種教員免許状(英語)が取得できます。

## 沖縄キリスト教学院大学

(仮称)

12894

詳しい資料をご希望の方は  
本特集の専用資料請求ハガキ  
でご請求ください。

#### POST CARD

別冊ハガキ

■所在地・問合せ先／〒903-0207 中頭郡西原町字翁長777 教務部入試課 TEL098-945-9782 FAX098-946-1241  
URL／<http://www.ojc.ac.jp> e-mail／nyusho@ojc.ac.jp  
■交通案内／「キリスト教短大入口」下車、徒歩5分。翁長(坂田小)下車、徒歩10分。

出展：ドリコムブック2003 大学・短期大学大研究



## キャンパスニュース

## 国連大学グローバルセミナー

第4回国連大学グローバルセミナーが12月19日（木）から12月22日（日）の4日間、佐敷町のウェルネスサンピア沖縄（元厚生年金休暇センター）で行われました。このセミナーは1999年より環境、ジェンダー、国際平和等のグローバルな問題をテーマに、日本人の大学生や留学生、国際問題に興味のある社会人を対象として毎年行われる全国的な宿泊セミナーです。今年のテーマは、「紛争から平和へ」でした。全国124名の応募者の中から本土からの学生が34名、沖縄県の学生が33名、本学からは、宮乃原利恵さん、盛山美紀子さん、島袋かおりさん、渡具知愛里さん、忠岡経子さんの5名が選抜され、本学より、セミナー参加のための奨学金も授与されました。初日は、国連大学副学長のラメッシュ・タクール氏や東京大学名誉教授、坂本義和氏の基調講演、2日目からは、朝9



時から夕方4時の間、第二次世界大戦のひめゆり学徒隊経験者や著名な国際問題の専門家、平和維持活動に従事するNGO代表の講義、平和記念公園やひめゆりの塔へのフィールドトリップ等もありました。参加者は毎晩、10名程度のグループに分かれて討議をし、最後の日には、発表という大変充実した内容のセミナーでした。

国連大学グローバルセミナー運営委員 宮国 薫子

## 高大連携事業開始



前泊豊光西原高等学校校長と神山学長



同時通訳体験講座

## 自己点検・評価 —学生による授業評価— (2002年度前後期) 実施

本学の自己点検・評価の一環として、学生による授業評価アンケートを前期（7月）と後期（1月）の計2回実施しました。アンケートの結果は報告書にまとめ、本学の教育活動を充実・改善するための

資料として活用されます。

なお、前期実施分については報告書『2002年度前期 学生による授業評価報告書』(2003年1月31日発行)が刊行され図書館で自由に閲覧することができます。

キャンパスニュース  
☆☆☆☆☆

英語科教授  
Randolph H. Thrasher

## 再びよろしく

関西学院で14年、国際基督教大学で22年勤務後、昨秋沖縄キリスト教短期大学より招聘を受け、赴任してまいりました。文部科学省に4年制大学申請のお手伝いのためであります。喜んで応じましたのは、私は1959—'62年の間当学院で教えており、それは私

にとって初めての教職でありましたから、当時の学生に非常に感謝しています。彼らは私に教える喜びを味わわせてくれたので、以来他の職業につくことはありませんでした。学生は、私が日本語どころか、母国語の英語ですらよくわきまえていないことを気つかせてくれたので、ミシガン大学で英語の修士と博士課程を修めました。40年余り前の学生たちが、学びと教育の喜びを教えてくれたように、今の学生たちとも、この喜びを分かち合っていきたいと思います。

After 14 years at Kwansei Gakuin University and 22 years at International Christian University, last fall I was invited to return to OCJC to help with the application to the Ministry of Education to become a 4-year college. I agreed to come back because the junior college was the first place I ever taught and I owe a debt of gratitude to the students I taught here from 1959 to 62. Those students taught me the joy of teaching and I have not been able to do anything else since then. They also showed me how much I didn't know about my own language so I went to the University of Michigan to get an MA in English Language and a PhD in Linguistics. I hope I can share with my present students the joy of teaching and learning that my students of 40 plus years ago gave me.

\*\*\*\*\*



英語科教授  
野崎茂

## ブエノス・ディアス！

2002年の後期から教壇に立っている野崎です。大学在学中の米国留学を皮切りに、南米チリにある国連ラテン・アメリカ経済委員会のエコノミスト、中米ホンジュラスにある国連難民高等弁務官事務所の難民保護官、名古屋にあるアメリカン・センターの広報担当官、東京にある米国大使館農務部の首席専門官、カリフォルニア州にあるモントレー国際大学院の助教授として勤務してきました。まるで、ジプシーのような生活でしたが、やつと放浪の旅にビリオドを打ち、故郷沖縄へ20数年ぶりに戻って来ました。

本学では、ビジネス関連の科目を担当しています。ご承知のように日本経済は、長引く不況とデフレから脱却できずにいます。読者の間では、「ニッポンンシス：ラテン語で日本固有の意味」という言葉が、「静かに確実に衰退している日本病」として使われ始めていますが、学生諸君との「日本病」について考えたいと思います。

趣味はテニス。人生の過ごし方をお手本にしているのは、ラティーノ（ラテン・アメリカ人）。好きな音楽はスタンダード・ジャズです。



## 学び続ける心を！

学生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

本短大での2カ年間、有意義な学生生活を送ったことと思います。先生方の講義、教師や職員や友人との出会い、諸活動をとおして、専門分野だけでなく人生や社会について多くのことを学んだことでしょう。

しかしながら、今日の学問や技術の進歩・革新は日進月歩の勢いであります。今日学んだことが、明日には役に立たなくなることも少なくないのです。

学問のみならず、あらゆる職業も奥の深いものです。その深みに向かって常に学ぶ心をもって歩み続けてください。神様の豊かな祝福をお祈りします。

(学生部長 前里 光盛)





## キャンパスニュース

## ■本学を訪問された主な方々 (2002年4月~2002年12月)

日付	氏名(所属、肩書き等)
4月10日	砂川朝信氏(沖縄女子短期大学学長)
6月11日	黄輝慶氏(中琉文化経済協会駐琉球辦事處代表)
7月11日	小森香織氏(小森助産院院長)
7月26日	Dr. Julia R. Miller (Michigan State University)
8月5日	齊藤美津子博士(国際基督教大学名誉教授・株)コミュニケーションズ代表取締役
9月10日	Caroline C. Latham氏(名桜大学教授)
	垣花郁夫氏(名護市国際交流親善委員長)
9月27日	崎浜タカ子氏(名護市国際交流親善委員会事務局)
10月16日	安部公正氏(前県立芸術大学学長)
	Michael A. Allen氏(George Fox University)
10月28日	識名朝勝氏(George Fox University)
12月19日	大嶺實清氏(県立芸術大学学長)
	本田哲郎氏(カトリック司祭/釜ヶ崎反失業連絡会共同代表)

沖縄キリスト教短期大学での  
インターナショナル・シアターカンパニー・ロンドン(ITCL)の公演に寄せて

2002年11月27日、体育馆で400人あまりの観客が集まる中、ITCLによる「オリバー・トワイスト」の沖縄初公演が行われました。5人の役者で全16の役を演じました。この劇は有名なイギリスの作者、チャーチルズ・ディケンズの小説からの作品です。大多数を占めた日本人の観客にとってイギリスの英語、特にコックニーのアクセントを聞き取るのは難しかったと思いますが、素晴らしい演技や感動的な歌を通して劇の本質的な意味は間違いなく伝わりました。今にも処刑されようとしている悪人フェイギンが彼の立場からストーリーを観客に語り掛けます。オリバーを社会の宿命から救った者は彼であって、有罪なのは

金持ちや尊敬されている人々であると彼は主張するのです。

ITCLの素晴らしい公演を本学で開催することが出来た事を大変誇りに思います。ITCLは

2003年の年末に再び来沖することを希望しています。

(英語科 Prof. David Gray)



## 退職される先生 短かった27年間



保育科教授 真栄城 隆司  
私は大学卒業の年(1960年)那覇高校をスタートに教員生活に入り、首里中・首里高校に転勤、1964年上京し研鑽を積み、1970年12月復帰の準備の為帰郷、その後琉球大学で5年間非常勤講師として働き、1976年本短大に専任として働くこととなりました。

あれから27年が過ぎました。その間教員・事務職員の皆さん、多くの関係者の方々に恵まれ又良い環境の中で教育・研究が出来たこと、さらに学外での活動もさせてもらい大変幸せな日々を送ることが出来ました。それも一重に教職員の皆さん、本短大の関係者、学生達のおかげだと、心から感謝しています。

在職中の想い出は多々ありますが、特に印象に残っている事は、首里キャンパス時代にクリスマス礼拝後、首里の街をキャラクルで廻ったことや奥武山グランドでのスポーツ大会等です。又、西原キャンパスでは、恒例のチャペルにおけるクリスマス礼拝、そして長年の夢であったチャーチオルガンが2000年11月に設置されたことです。

いよいよ来年の4月には、四年制大学がスタートすると思いますが、それが実現し、更に早い時期に保育科も四年制大学になること、そして建学の精神を守り、充実・発展される事を心から願ってやみません。

## 2002年度 県功労者表彰

2002年11月3日に、県功労者表彰式典が那覇市内のホテルで開かれ、県の発展・振興の貢献者として本学関係者の下記の2名が表彰されました。

「教育」  
原 喜美氏(本学名誉教授、元学長)  
「社会福祉」  
稻福盛輝氏(本学元教授、元校医)

原喜美氏は、同年11月にキリスト教学校教育同盟による日本キリスト教功労者としても顕彰されました。



(本学名誉教授、元学長)  
原 喜美氏



(本学元教授、元校医)  
故 稲福 盛輝氏

## 新部署長のあいさつ



## 二年生宗教部長として

新宗教部長  
金 永秀



## 英語科で学ぶ皆さんへ

新英語科長  
山里 恵子



## 「たいせつなきみ」

新保育科長  
喜友名 静子



## ご挨拶

新総合教育系主任  
上原 明子



## QoE(教育の質)

新教務部長  
大城 宜武

学校行事への  
参加は重要!

新学生部長  
前里 光盛



## 図書館長の願い

新図書館長  
比嘉 健次郎

「在日」の私は、今年で沖縄キリスト教短期大学に来て三年目、宗教部長としては二年目を迎めました。引っ込み思案で、のんびり屋の私は、沖縄とキリシタンの歴史・現状把握については、まだまだ認識の甘さ、浅学のそしりを免れません。只、本短期大学が、仲里朝章先生をはじめとした先達の、戦争の闇黒体験と「福音」による開放に根ざした、「キリスト教平和教育」への希求によって生まれたことを教えられた事は、宗教部活動の指標になっています。宗教部は「建学の精神」を時代状況の中で再確認し、再解釈をする仕事をえらべていると思っています。色々と教えていただぐ中でそのことを追求したいと願っています。

2003年4月より向こう2ヶ月英語科科長を務めることになりました。微力ではありますが、皆様の協力を戴いて魅力ある英語科を築いていくよう頑張りたいと思います。よろしくお願い致します。

さて、グローバリゼーションの時勢において英語科に求められているものは、語学に強い学生を育てる事と、仕事に役立つ資格を提供すること、隣人と共に働く教養を授けることがあります。これまでにも、学生一人一人の自覚のもとに良い結果を出してきました。向こう2ヶ月も、各自がキリシットスピリット(常に前向き)を身につけ頑張ってもらいたいと思います。

昨今の保育界を一言で表すと「とにかくいいへん」です。多様な保育二つの対応。地域における子育て支援、休日保育、一時保育、地域活動事業、乳幼児の保育に関する相談・助言の義務。幼稚園における「預かり保育」二つの高まりなど。幼児教育界は今日の社会の課題が満載です。このような中で、保育者は「子どもの最善の利益」を最優先して大奮闘中。保育の業は華やかではありませんが、幼な子とのつき合いは、本質を見極める目と真実を語る濁りのない心とは何か?保育者に問うて聞けさせられます。明日に向かってほどばし子どものエネルギーは希望の源です。保育科もひとり一人の出会いを大切にしながら、勇気と創造力のあるエネルギッシュな学科でありたいと思います。

総合教育系は、英語科、保育科の専門科目を学ぶ学生の基礎(いしづえ)の役割となる、教養教育を行っています。大学改革の大波を被り、多くの大学から独立した教養教育が消えてきました。「意思ある教養教育」として残った総合教育系は、時代の振り返しの中、いつのまにか日本の大学教育の先端に位置づいています。

「大学における教養教育のあり方とその意義」とは、何でしょうか。私は、「自らのために自分で学べる学生を育成すること」であると考えます。学生にとって意味のある教養教育のあり方を探求しつづけながら、総合教育系スタッフの一員として、キリシットの根っことしての役割を真摯に担って参ります。よろしくお願い致します。

おそらく、学長に次ぐ激務をこなすのが教務部長の役割です。教務部長の任期は2年です。教務部は授業と成績の管理を中心に運営されます。短期大学の教育を統括するので、重い責務を課されています。短期大学設置基準は、短期大学が教育研究水準の向上を図り、その状況について自ら点検及び評価を行い、結果を公表するように定めています。また、教員には教育上の能力への配慮を求めています。教員はいまでもなく、学生の、学びへの意欲が湧き、教育の実が上がるよう、スタッフとともに活力あふれるキャンパスを目指して奉仕する所存です。

2003年には四年制大学設置の申請も控えています。学生、ご父母、同窓生、ご有志の皆様のご支援、ご教導を切にお願い致します。

学生部は、英語科や保育科、総合教育系の先生方と連携を密にして、学生の修学、進学、就職、留学、健康、人生問題等について、相談を受けアドバイスをします。先生方は、研究室にオフィスアワーを設け、アドバイザーとして問題解決のための援助をしています。

学生部には、「学生課」「就職課」「国際交流室」「保健室」「学生相談室」があり、各担当の職員が、学生のさまざまな悩みや疑問に答えつつ、誠実に支援をしております。

学生部は、多くの学校行事を実施します。是非参加して自分の人生行路を見出し、その実現のための方略を相談して下さい。学生のどのような質問にも答えるのが学生部です。

図書館長は20年前ほど前にも一度やったことがある。キャンパスが首里にあった頃で、ワンフロアの小さな図書館であった。館長というより図書室長と言つた方が実情に近かつた。小さな、みすぼらしい図書館ではあったが、今より学生は本を読んでいたような気がする。閉館前にカウンターに立ち寄っては、今日の売り上げはいくら、と貸出券を数えては一喜一憂したものである。

この気持ちちは今でも変わらない。大学図書館の命は蔵書数でも稀少本でも施設設備でもない。学生がよく利用してくれるかどうかがどうかでその良し悪しが決まる。利用者数と貸出冊数を出来るだけ増やしたいこれが新館長としての願いである。

本学に勤めて30年、図書館には毎日顔を出し、随分お世話をになった。定年前の最後の2年間、図書館長に任命されたが、微力ながら恩返しをしたいものと心に決めている。2004年には懸念の四年制大学もスタートする。新学科のカリキュラムにふさわしい蔵書構成にしなければならないし、専門誌も増やさなければならぬだろう。限られた予算の中で知恵を絞りたい。



## キャンパスニュース



## キャンパスニュース

# 第38回 キリ短祭において、ユニークな企画が多かつたので、その一部を紹介します。

## 世界のキリタンチュ大会

### 「一期一会 38名の先輩として最高の仲間たち」

一期一会～今を大切に～をモットーにスタートした、第38回沖縄キリスト教短期大学学園祭、初の企画「世界のキリタンチュ大会」は、多くの方々からご好評の声をいただき、大盛況のなかに幕を閉じることが出来ました。この企画は地域の方々に、県内、県外、海外で活躍するキリ短卒業生を紹介し、在学生に“今キリ短で何ができるか”を考える場を提供すると共に、私たち実行委員もこの活動を通して成長できればという想いが込められていました。キリ短祭当日には、2日間を通してパネルの展示、2日目には、26期英語科卒の田頭秀美氏による講演会、パイプオルガン演奏、講演後の交流会という日程で行われました。夏休みを返上して、毎日のようにミーティングを持ち、卒業生の名簿や先生方の情報を元に連絡をとり、インターを行って、原稿をまとめ、パネルに仕上げていくという流れの中で活動してきました。しかし、はじめのリストアップの段階から行き詰ってしまい、思うように事を運ぶことができず、ただ時間だけが過ぎていくという状況でした。そして、そんな私たちを救ってくれたのが先輩方でした。お忙しい中にも快く引き受けくださいり、直接お話を伺うことができない方には、メールや手紙で連絡を取り合い、質問に一つ一つ丁寧に答えて頂きました。また、励ましの声も掛けてくださいり、ガッバレ、ガッバレ、というメールの文字に胸が熱くなつたことが思い出されます。卒業後も、自分の夢や目標を追いかけ、努力を怠ることなく、常に前進していく先輩方の姿に感銘を受け、現在、そして未来の自分たちの姿を先輩方に照らし合わせて、自らを見つめ直す良いきっかけになりました。今回インターに応えてくださったのは38名ですが、その皆さんと共に言われたことは「無駄なことは一つもない、目標を持って今という時を大切にして下さい」ということでした。

次に、先輩方の声をいくつか紹介します。



### ★キリ短の思い出★

- とても人生勉強になりました。ここで築いた人間関係は今でも大事にしています。(40期英語科卒 照屋健)
- 「英語力を習得」できしたこと。米国の大学でも通用する英語の基礎を身に付けることが出来ました。(34期英語科卒 仲里和花)

### ★目標・夢★

- いつも学び、自分を磨く姿勢を忘れずにいること。(34期 英語科・41期 保育科卒 与那覇美奈子)
- 外務省。そしてお嫁さん。(44期英語科卒 上地真理)

### ★在学生へのメッセージ★

- 皆さんの心の中にある希望は、信念をもって立ち向かっていけば必ず実現します。(15期英語科卒 豊見城清美)
- 自分の未来を信じ、可能性を信じ、勝手にリミットを決めないほうが楽しい人生だと私は思います。(31期英語科卒 篠原弘人)
- 学間に励み、興味のあることに挑戦し、お洒落も恋もたくさんして、素敵な女性、男性になってください。(38期英語科卒 大城華)



「世界のキリタンチュ大会」は、13人の委員で活動し、各自知恵を出し合い、手作りの温かさあふれる企画になつたのではないかと感じています。一期一会の出会いを大切に、キリタンチュの誇りを持って、一歩一歩夢への階段を上っていきたいと思います。最後に、先輩方を始め、この企画を通してお世話になった皆様方に心から感謝の気持ちを送りたいと思います。本当にありがとうございました。

「世界のキリタンチュ大会」実行委員会

## こどものへや

キリ短祭で、私たち保育科がこれまで学んできたことを通して、祭りに来てくれる子ども達、そして親子共に楽しめた空間創りが出来ないかと考え、このイベントを「こどものへや」名付けました。私たちこれまでの教材研究の展示や、子ども達が実際に自由に活動できる絵本コーナー・製作コーナー・活動コーナーを設け、創造する喜びやチャレンジする楽しさなどを体験させることができました。

(保育科2年次 石川ちどり)

## ポップ・オブジェ

—雑材の「みたて」による表現活動—

ポップ・オブジェ (Pop Object) (註)  
とはなにか。

この様々な廃品で作られた立体作品は、沖縄キリスト教短期大学保育科2年次が「図画工作」の演習で制作したものだ。そのイメージは動物や人間に始まり、建物や商品、食品、記号といった日常、我々が目にするあらゆるものが主題となっていて、一見して分かる通り、決して「そっくり」という意味においてうまい作品ではないし、それどころかある意味、稚拙とさえ言えよう。だが、それはさしたる問題ではない。なぜならば、この活動においては、例えば、公募展などに出品されるブロンズ等によって作られた通常の造形作品のように、単なる事物の再現や模倣(ミーメス)ではなく、まったく異なる目的が目指されているからである。その活動目的を一言でいえば、事物を「何かのよう見なす」というみたてを端緒とした表現活動の体験である。通常、我々が何かを制作する場合、なんらかのテーマを決め、それを表現するのに見合った材料を準備し制作するが、このポップ・オブジェはそういうプロセスによって制作されてはいない。

まず、制作者である学生は、日常生活の中から不要となったペットボトルや葉子箱、発泡スチロールのトレイやプラスティック容器、ビニール袋といった廃品や廃材(幼児教育の用語では「雑材」)を準備し、それをおもてたることで何がイメージできるかを検討し、その後、出てきたイメージを制作によって確かなものにしていくわけだ。

モノの充足を求めて、遂には全てが記号的イメージとして存在する高度消費社会。



## 2002年 沖縄キリスト教短期大学 学園祭「図画工作」作品の出品によせて

私はそういったイメージを「外在するイメージ」と呼びたいが、そのようなイメージ優位の時代に生きる我々に必要な能力とはなんなのだろうか。おそらく、それはゼロから何かを創造する能力ではなく、我々を包囲する膨大なモノやイメージを前提としながら、それをすらし、様々な方向へと異化しつつ、その存在を批判的にシミュレートすることではないだろうか。

紙皿から円盤へ。卵パックから花へ。発泡スチロールのトレイからパソコンへ。段ボールの表面からゴーヤーへ。様々に異化され連鎖するイメージ。今のコンテクストから異なったコンテクストへと転換する、この柔軟な発想こそ、今日の消費社会の創造性であると同時に、保育士や幼稚園教諭として幼児のみたての活動に関与する上で、もっとも重要な能力の一つであると思われる。

吉村壮明(沖縄キリスト教短期大学 保育科 講師)

そもそも、このポップ・オブジェという言葉は、幼児教育の分野の用語ではない。私の知る限りでは、このタームは大阪教育大学の教育実践・教材研究室(アトラス企画室)において、初等・中等教育の実践紹介として初めて使用されたと思われるが、それは高度消費社会の表現形態であるポップ・アートやネオ・ダダの作品を造形教育に反映した優れた実践であった。



## 募金

キリスト教短期大学の「ヨコと名嘉屋製糸さん」が支援するためのバザーにて取り組んだ学園祭の一環として金額充て金額をアフガニスタンの病院医療などと寄付する。

### アフガン難民を支援 キリ短大の学生らバザー



バザーで支援を訴える名嘉さん、渡具知さん、宇岡さん(右から)=キリ短大



2002年11月22日 沖縄タイムス掲載



## キャンパスライフ

45期学生会長 忠岡 経子



## 心感じて

学生会会长として過ごして1年。この1年間が充実しすぎて、1年生の時の事はあまり覚えていない。会長に就任し、動機は不純ではあったが、1年後こうして18人の学生会メンバーが18通りの成長を成し遂げたことが、今となっては会長冥利に尽きる一瞬だと感じている。数々の行事をこなし、それだけの苦い経験や楽しい経験などたくさん作った。特に80人余りの学生で作ったキリ短祭。皆で試行錯誤していく中で、他人を思ったり、自分を守ったりという、あの時の作業がこれから私たちの人生に大きく影響していくに違いない。この思い出がからの私達にとって永遠の財産であるよう、そしてこの学内で出会った仲間たちが一生の財産であるよう、心から願いたい。2年間ありがとうございました。

英語科2年次 宮之原 利恵 (AO社会人入学生)



## キリ短に心から感謝

キリ短で学んだこと・学べた事は、私の生涯の財産になると思います。キリ短での2年間、私は新しい扉を開き続けました。新しい世界を知り、体験する事は、私にとって大変実り多いものであり、又、とても楽しかったからです。それは小さな事から始まりました。本をたくさん読むこと、書くこと、話すこと等。それらを探求していくうちに、更に新しい世界が広がり、たくさんの扉を開くことができました。その結果、春より、立命館大学・国際関係学部へ編入することとなりました。それも、レベルの高い教育、素晴らしい教授陣、たくさんの扉を開いてくれた“キリ短”で学べたからだと実感しています。キリ短と出会えて本当に楽しかった。そして人生の豊かさへの選択肢をたくさんありがとうございます。心から感謝します。

保育科2年次 八巻以世子 (社会人入学生)



## 「青空にジャンプ!」

ウリヒャーデジナトーン コンピューター、ピアノでは手が止まる。ナンデダロー、ナンデダロー、大学進学に向けての準備らしき学びはしてきたものの…。35年のプランク。一瞬、来るべき場所を間違えたと錯覚もした。しかしこの2ヶ年を振り返ったとき、学問的知識にとどまらず、友人、先生方との出会いの一つ一つに人として気付きの成長をとらえることができた。大学—それは受身ではなく、何事にも自らが勝ち取っていく場であり、そこには、未知なるパワーが潜んでいることに誰もが気付かれる。年齢? 学ぶことには関係ナイス!! 八巻さんは只今「青春真っ只中」サルサを踊り、飛び箱三段を青空高くジャンプ、キリ短での学び舎をスタートに専門的知識への欲求が高まり今後は四年制大学でのキャンパスライフを謳歌します。

Going my way — a life time of active involvement

保育科2年次 上原 愛



## 「みんなで過ごした2年間」

小さな不安と大きな期待を胸に抱いた入学式からはや2年、私たちもとうとう旅立ちの時を迎えることとなりました。思えばこの2年間、楽しいときや苦しいとき、いつも側には仲間達がいました。何でもない事で大笑いしたり、実習の厳しさを共に励ましたりなど、仲間と過ごした時間は、私の中ですっと輝き続ける「大切な物」となりました。そして、そんな仲間達の支えのもと、私は琉球大学への編入試験を無事に合格することが出来ました。学校の勉強と受験勉強の両立は辛かったですが、まわりの励ましは、何よりも私に元気とやる気を与えてくれました。4月からは、皆それぞれの道を歩むことになりますが、キリ短での青春時代を忘れずに、いつまでもキラキラ輝いていたいです。最後に、保育科Dクラスの皆さんありがとうございます。ずっとずっと友達でいようね!!

## 留学生紹介

英語科2年次 曾 建霞 (中国)



## 私のキリ短留学生活

三年前に、英語と日本語を上手に話したいという思いでキリ短を選ぶことになりました。

最初の一年間は、科目等履修生として通っていました。授業のときに、私は、おしゃべりばかりしていたのですが、担当の先生は私の事を責めることはありませんでした。そしていつも笑顔で接してくださいました。その優しい笑顔で私は自分のわがままなことに気付きました。また、英語から日本語、日本語から英語に翻訳することはなかなか上手くいきませんでした。その際、“曾さん、頑張って！”と周りの友達や先生方から励ましの言葉をいつも頂きました。負けず嫌いな私は、みなさんの優しい言葉で授業や留学生生活での様々な問題を乗り越えることができました。

いろんな出来事のきっかけで、私はそのままキリ短の正規留学生になっていました。学校には、留学生と日本人学生が仲良くするためのいろいろな交流会がありますので進

路からプライベートまで何でも話せる寛ぎの空間の中で、私は夢を見つけました。やりたいことと今通っているキリ短で勉強していることが違っていることに気が付いて、私は慌ててしましました。これからどうするの?という質問を抱き、先生方に尋ねにいきました。将来、自分の会社を作りたいのですがと相談すると、「いい夢を持っているね」と讃めてくれるうえに厳しい事も助言してくれました。“これから君はもっと頑張りなさい、今のところは、先ずキリ短において英語と経営の基礎についての知識を身に付けることが大切だよ！、と教えてくれました。

夢に向かって頑張りたい私は、編入することになりました。そして、インターネットで調べたり、先生方にアドバイスをしてもらったり、友達に相談したり…やっと、神奈川県にある産業能率大学に編入先が決まることになりました。

卒業するにあたって、顧みるとキリ短を選んで本当に良かったと思います。学校は小さいけど中身が大きいということについてみなさん伝えたいと思っております。



## 地域・交流

## チャレンジウイーク

## “国際交流プログラム”で西原町中学生受け入れ

西原町中学生社会体験学習「チャレンジウイーク」受け入れも今年で2回目となりました。西原町教育委員会の要請を受け、7月1日(月)から5日(金)までの5日間中学2年生12人が本学の国際交流プログラムに臨みました。

チャレンジウイークは西原町が一体となって取り組んでいる教育事業で、地域の力で地域のこどもを育てる意念に満ちています。こどもたちに社会体験をさせることで、地域の一員、社会の一員であることを体得させ、共に生きる心や感謝の心、主体的に取り組む態度の育成をねらいとしているとの事前説明を受けました。

西原中学校から4人、西原東中学校から8人の生徒さんが参加し和気あいあいと協力しあって全

員満刺とプログラムを終了しました。短い期間ではありましたでしたが、教職員・留学生・その他の職員たちとの交流や与えられた仕事・課題に向き合うことをとおして異文化交流を経験し、ひとつひとつの仕事の大切さと職場でのマナーを学んでもらえたと思います。

職員、清掃業務員、外国人非常勤講師、留学生学生の皆さん協力のおかげで、沖縄キリスト教短期大学も当プログラムで西原町の地域力の一端を担うことができました。12人の中学生からも御礼と感謝の手紙が2度も寄せられましたことをご報告します。

(指導ボランティア:総務企画課 西銘純子)



短大生と英語の授業



清掃のプロに学ぶ



堂々と体験報告



中国茶を楽しむ



## 同窓会便り

### 四年制大学設置事業に2,000万円寄附

沖縄キリスト教短期大学同窓会は、学校法人沖縄キリスト教学院の四年制大学設置事業を側面から強力に支援し母校の発展に寄与することを目的に、沖縄キリスト教短期大学に対し2,000万円の寄附を行うことを臨時総会において決定しました。

これは本年2月25日、大城進一理事長と神山繁實学長連名による「学校法人沖縄キリスト教学院創設経費等の援助について」の同窓会長宛要請書に応えたもので、決定までの経緯は次のとおりです。

3月7日 役員会(午後7時 不二ホテル)

### キリ短を支える祈り会

キリ短卒の牧師会が中心となり、本学の発展を願う「キリ短を支える祈り会」が発足、第1回の集いを11月26日午後7時から短大チャペルで開きました。当日は、牧師会(同窓会)5名、前学長原喜美先生、神山学長、金宗教部長、同窓生3名の計11名が出席しました。

出席された方々から献金があり、四年制大学設置のた

- 学院当局による要請の内容説明と質疑応答(出席:大城理事長、神山学長、新川事務局長)
- 役員会審議

3月9日 臨時総会開催案内(新聞広告2紙)  
3月13日 臨時総会(午後7時 短大チャペル)

なお、寄附金(目録)の贈呈は、3月15日の第45回卒業式において行われる予定です。

同窓生個々の募金については、従来どおり呼びかけていますのでご協力よろしくお願いします。

めに短大へ捧げられました。

#### キリ短卒の牧師会構成メンバー

知花真康(3期卒 同窓会長)	調弘道(8期卒)
座間味宗治(3期卒)	田中恵理弥(24期卒)
松田善弘(5期卒)	花城静子(17期卒)
金城信一郎(8期卒)	上原智加子(36期卒)

### 専用パソコン購入～会員名簿作成に活用～

会員名簿入力、その他同窓会事務のための専用パソコンを購入しました。設置場所は同窓会事務を担当する短大事務局総務企画課内です。

専用パソコンの導入により、数年にわたり中断していた会員名簿データ修正作業も再開可能となりました。

同窓生の情報をより正確に把握するため氏名・住所・

勤務先・電話番号等の変更・異動の際は、短大総務企画課までお知らせください。

連絡先： 電話098-946-1238  
Fax 098-946-1241

でき、とても嬉しく思いました。

キリ短OGの皆さん、来年、再来年と交流会を続けていき沖縄の児童文化の発展を願い、皆で力を合わせ盛り上げていきましょう。卒業生の方でサークルをつくって活動されている方は是非ご連絡ください。」

卒業後、活動を行っているのは、「劇団かじまやあ」「結の会(20期)」「ゆめわらび(33期)」「南風(35期)」である。

(玉城郷子 児童文化研究サークル OG)



(ぶーひやー三郎とキジムナー)

### 児童文化研究サークル“同窓会”

去る2月9日(日)に、キリ短卒業後も各地で活躍する児童文化研究サークル卒業生が中心になり、現役生との交流も兼ね「同窓会」が行われました。

一部は、それぞれ各期毎に、人形劇・ボードビル・フィンガーアクションなどの内容で公演が行われた。一般的の観客も合わせて160余名が体育館に集まり児童文化の世界に魅了されました。二部の交流会では和やかな雰囲気の中、80余名が参加しました。

当日、会場準備係であった1年次は大先輩からたくさんの情報を得て今後の活動に意欲満々であり、これからも活躍が楽しみです。

今回、幹事を務めた33期(ゆめわらび)代表の真栄城かの子さんは、つぎのように語りました。「初めての試みで不安でしたが忙しい中、多くの方に参加していただき大成功に終わりました。皆様方のご協力に感謝しています。7期から46期まで幅広いキリ短生が児童文化というひとつ繋がりで出会い、語り合う機会を持つことが



## 教員の研究・教育活動



英語科教授 山里 恵子

### 研究発表

## 同時通訳者養成講座がキリ短大生に与える 英語の学習効果

沖縄キリスト教短期大学で同時通訳者養成講座を開いて10年たった。同時通訳養成者として著名な斎藤美津子先生にご協力を戴けたのは本当に幸運であった。斎藤先生を筆頭に一流の先生方がコミュニケーションズより馳せ参じて下さった。講座は集中講座で、8月の夏真っ盛りという時期に、8日間、午前・午後と行われる。

この講座は、英語に関する職業に就いている社会人と大学生に提供されるかなり高度なものである。これまで受講した本短大の学生も精一杯に頑張った。社会人に比べると、何ともおぼつかないキリ短生だが、8日間に見せる彼らの

### Training in Simultaneous Interpretation as a Powerful Helper of Foreign Language Learners to Improve Their Foreign Language Ability

#### Abstract

It is known that those who want to get training in simultaneous interpretation have to have good knowledge of two languages (in this paper, English and Japanese). Especially their grammar in each language should be perfect or nearly perfect like native speakers. Otherwise, their work will be just noisy or disgrace the original language.

In spite of the difficulties stated above, young Japanese English learners at a junior college are offered an intensive training program of simultaneous interpretation for eight days every year. The level of their English is low. However, it has been observed that their English was unexpectedly improved instead of disgracing it. Therefore, this paper will show the learner's English level referring to the result of TOEIC, the nature of the program, How their improvement is examined and their evaluation of the program.

As one aspect of the nature of the program, the students have to

努力はすごい。キリ短スピリットを發揮して、あの厳しい訓練によく耐え、英語力を最大限に伸ばしてくれた。彼らがいかに成長したかは、閉講式の挨拶の同時通訳実践で感じ取ることができる。講座の一担当者として、学生のこの成長振りをテーマに何とか論文にまとめたいと取り組んできた。幸いに、国際応用言語学会(AILA)で口頭発表する機会を得ることができた(現在執筆中)。学会は、2002年12月中旬にシンガポールで開催された。発表の内容のあらましを下記に紹介する。

learn "sight translation." Whatever structure their language has, they have to translate English sentences from head to tail using a technique such as adding words or making two different sentences. This practice helps the students to understand English faster.

To examine their improvement in English, translation tests are given to them twice, before they start the program and after the program. In each time the same tests are given so as to observe the differences clearly. Each student is given a tape on which a short article from a newspaper is recorded. They are given twenty minutes to translate it in a written form. The two translations show differences in word choice, sentence structures, and translation quantity.

Training in simultaneous interpretation surely helps foreign language learners in junior college to improve their foreign language ability.

沖縄キリスト教短期大学  
紀要  
第31号  
真栄城隆司 教授  
退任記念号  
目次

巻頭言  
神山繁実 2002年末に想うこと

回顧  
真栄城隆司 真栄城隆司プロフィール3

原著  
山里恵子 Towards Reading Rate and Flexibility in L2:  
A Report EFL Students Responses

沖縄県の幼稚園大衆化過程に関する一考察

~明治末期を中心として~

作品と表現概念をめぐる基礎的考察

~近代における「作者の誕生」を中心として~

朝鮮キリスト教宣教の前段階的事件としての甲申政变

~宣教師アレンと尹致昊との関係について~

三・独立運動における宣教師評価

~韓国教会史観の拠点からの考察~

組合教会の朝鮮「同化」伝道の批判的考察

Integrating Sustained Content across the four skills: Listening, Speaking, Reading and Writing in the English as a Foreign Language (EFL) Environment

沖縄における社会不安の構造に関する研究:2

米国9・11テロ事件と沖縄107

琉球歌と古代ギリシアの悲劇125

Identity Politics of Japanese American Studies and Okinawans 145

子ども難民と人間の安全保障

~地位の認定について~

研究ノート  
西平章子 Teaching English Reading through Cooking 163

Peter Simpson Critical Discourse Analysis in Context: A Case Study 171

講演要綱  
山里恵子 沖縄キリスト教短期大学、同時通訳者養成講座10周年記念講演  
斎藤美津子博士による講演「同時通訳者の将来と展望」の要約

2002年12月

### 2003年度前期公開講座

講座名(講師名)	内 容	開設日
カウンセリング:理論と演習(渡久地政輔)	精神分析的カウンセリングと未読者中心カウンセリングの理論と技法を学ぶ。ロールプレイと事例研究も含める。	4/18~5/27 (10回) 毎週金曜日
同時通訳(山里恵子・宮国薰子)	・通訳者の心得 ・日本語のイントネーション ・シャドウイング(日・英) ・サイトトランスレーション(日・英) ・メモの取り方 ・受講者のスピーチの同時通訳	4/22~7/8 (10回) 毎週火曜日
言語芸術と詩歌のワークショップ(上原明子)	詩歌や琉歌、和歌などのリズムを体感し言語芸術に触れる。朗唱法の指導あり、実践と理論の双方から学ぶ。	4/24~7/3 (10回) 毎週木曜日
アラビア語(マルコ・マッセターニ)	すぐに使えるアラビア語をはじめ、音楽・オペラ・映画・食・歴史などアラビア文化を学ぶ。楽しい料理とワイン講習会もあります。	4/3~6/12 (10回) 毎週木曜日
英文会計入門(鶴岡経世)	英文会計、簿記の基礎的な原理を理解し、帳記・決算などに関する初步的な実務を学習する。	4/23~7/2 (10回) 毎週木曜日
沖縄の長寿と健康 Okinawan Longevity and Wellness (糸数デビット)	・入門・長寿の意味と健康について ・東洋と西洋の長寿にまつわる伝説、沖縄の長寿に関する伝説。 ・長寿のグローバルな傾向と現象、長寿の経済的利点と社会に及ぼす影響。 ・個人、社会、そして世界に向けての長寿の重要性 ・健康食品産業、観光産業、および健康に関するプロジェクト。 ・人の体と健康的な長寿に関する認識と医学的基礎。 ・健康と幸福について(物質・精神・感情) ・健康の意味とは、病気の意味とは。 ・日本の主な病気と死因、健康でないライフスタイルと病気の構造。 ・健康的なライフスタイルと病気の予防。 ・沖縄から世界に向けて偉大な寄与。 ・結論	4/21~7/7 (10回) 毎週月曜日

担当: 総務企画課 TEL. 098-946-1240



寄付感謝報告

募金へのご協力ありがとうございます。ここに感謝をもってご報告させていただきます。

寄付指定（2002年1月1日から2002年12月31日）

個人10,975,691円 団体14,826,089 会計25,801,780

合計25 801 780

父 母	花 知	恒 広	子 和 克	江 次 行	信 雄 成	子 修 也	光 治	20,000	その他 宗教関係	沖縄キリスト教短期大学後援会	5,500,000	学校関係者 教職員	大 城 進 一	50,000	
	念 仲	宗 根	根 初	宗 根	正 興	一 吉 逸	南 鳩	10,000		沖縄キリスト教短期大学同窓会	1,150,000		吉 神 柳	20,000	
	江 初	根 初	信 盛	根 初	興 一	吉 逸	比 尾	10,000		相愛幼稚園	10,000		濱 山 澤	50,000	
	行 初	行 初	雄 正	興 一	成 吉	逸 逸	嘉 嵐	20,000		大森 泰夫	200,000		幸 繁 千恵子	100,000	
	信 初	信 初	雄 正	興 一	成 吉	逸 逸	崎 嵐	2,000		Wider Church Ministries of the UCC	120,000				
	雄 初	雄 初	雄 正	興 一	成 吉	逸 逸	嵩 嵐	10,000		県民クリスマス実行委員会	20,000				
	成 初	成 初	成 吉	成 吉	成 吉	成 吉	原 原	10,000		佐敷教会	10,000				
	逸 初	逸 初	逸 逸	逸 逸	逸 逸	逸 逸	座 座	5,000		読谷教会婦人会	5,000				
同窓生／ 在学生	44期秋季卒業生 (卒業献金)							10,000	学校関係者 教職員	沖縄キリスト教短期大学同窓会	1,150,000	小計	3,120,000		
	伊 波	照 照	赤 嶺	前 村	第44期卒業生		伊 波	55,000		大 山 伸 子	1,000				
	波 あ	屋 あ	嶺 る	村 千			波 あ	10,000		町 田 妙 子	5,000				
	波 薫	屋 づ	嶺 り	村 秋			波 薫	10,000		神 山 美代子	1,000,000				
										津波古 きくえ	90,000				
										島 袋 忠 雄	60,000				
										平 良 みどり	28,000				
										柳 沢 千恵子	510,000				
												小計 12,812,910			
一般	739,100								奨学金 宗教関係			その他	高校生英語弁論大会		
	谷 伸	村 里	村 純	村 純	代 めぐみ	代 めぐみ	谷 伸	10,000		田 崎 邦 男	1,000,000			(株)沖縄富士通	
	山 伸	山 里	山 里	山 里	万 萬	万 萬	山 伸	2,000		O I C 教会	400,000			システムエンジニアリング	
	山 倫	山 倫	山 倫	山 倫	里 里	里 里	山 倫	10,000		よきナマリヤ人伝道所	200,000			日本総合整美(株)	
	子	子	子	子	奈 奈	奈 奈	子	10,000						琉球放送株式会社	
													代表取締役		
													座安 弘		
													50,000		
													小計 100,000		
													その他		
その他	18,000								一般			その他	沖縄キリスト教短期大学後援会		
	桐 会	山 倫	山 倫	山 倫	守 將	守 將	桐 会	74,810		與 儀 美登子	100,000			沖縄キリスト教短期大学同窓会	
	川 西	康 裕	康 裕	康 裕	1,000,000		川 西	80,000		神 山 裕 健	100,000			大 城 宜 武	
	(株)オーディフ	金秀グルーブ	会長	吳屋	守 將	1,000,000	(株)オーディフ	30,000		三協電気工事(株)共済会	代表			44期学生会	
	金秀グルーブ	会長	吳屋	守 將	1,000,000					玉城 利和	132,000			300,000	
	会長	吳屋	守 將	守 將	1,000,000					三協電気工事(株)	468,000			700,000	
	とわの森三愛高等学校	みつる保育園	みつる保育園	みつる保育園	10,000		とわの森三愛高等学校	10,000		沖縄キリスト教短期大学後援会	300,000			120,000	
					15,000					沖縄キリスト教短期大学同窓会	100,000			33,600	
										西原町人づくり支援の会	100,000			小計 1,153,600	
														合計 25,801,780	

2001年度決算報告

2001年4月1日から  
2002年3月31日まで

本学決算は、文部省令「学校法人会計基準」に拠って作成されたものです。2001年度の資金収支決算および消費収支決算の概要は下記の通りです。

資金收支計算書

136 (2014)

資金支出の部		資金収入の部	
科 目	決算額	科 目	決算額
人件費支出	509,397,650	学生生徒等納付金収入	732,369,700
教育研究経費支出	196,571,790	手数料収入	20,410,500
管理経費支出	27,039,933	寄付金収入	18,689,881
借入金等利息支出	19,062,577	補助金収入	136,074,084
借入金等返済支出	89,550,000	資産運用収入	7,846,766
設備関係支出	15,372,697	事業収入	3,758,780
資産運用支出	125,984,564	雑収入	43,462,288
その他の支出	171,117,802	借入金等収入	6,300,000
予備費		前受金収入	371,914,000
		その他の収入	240,669,352
資金支出調整勘定	△ 52,355,506	資金収入調整勘定	△ 413,167,084
次年度繰越支払資金	488,031,330	前年度繰越支払資金	421,444,570
支出の部合計	1,589,772,837	収入の部合計	1,589,772,837

消費收支計算書

METHYL

消費支出の部		消費収入の部	
科 目	決算額	科 目	決算額
人件費 (退職給与引当金繰入含む)	521,710,548	学生生徒等納付金 手数料	732,369,700 20,410,500
教育研究経費 (減価償却額含む)	247,416,307	寄付金 補助金	18,855,691 136,074,084
管理経費 (減価償却額含む)	31,420,519	資産運用収入 事業収入	7,846,766 4,067,216
借入金等利息	19,062,577	雑収入	43,462,288
予備費		帰属収入合計 基本金組入額	963,086,245 △ 99,250,000
消費支出の部合計	819,609,951	消費収入の部合計	863,836,245
当年度消費支出超過額	△ 44,226,294		
前年度繰越消費支出超過額	619,979,815		
翌年度繰越消費支出超過額	575,753,521		